

## 風の盆

富山市八尾町に「風の盆」と呼ばれる民謡行事があります。熟年バスツアーの人気の的。毎年、9月1日～3日に開催され、60万人の観光客が集まります。山の斜面に石を積み、高台を作って造られた町。江戸時代に商業で栄えた町です（そのひとつの諏訪町は「日本の道百選」に選ばれた美しい町並みです）。

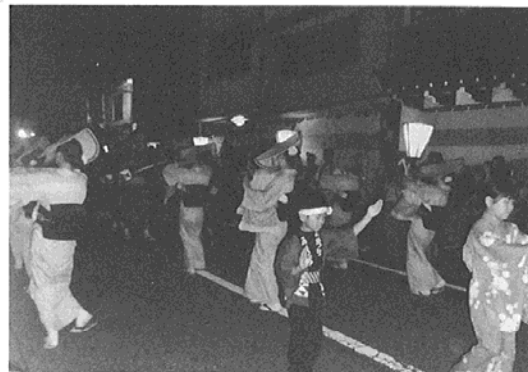
町並みだけでも魅力のある町ですが、そこに風の盆が伝承されています。



中嶋哲夫の「人事も歩けば」

風の盆の魅力は、静けさとゆったりとした風情。行灯に照らされた薄暗い町並みを歌舞団が流します。前に踊り手、後ろに音曲。20人ほどのチームが分速10メートルくらいの速度で進みます。皮下脂肪がない若者のすっきりとした指先が魅力の踊り。高音で唄われるおわら節。闇夜にしみ出る胡弓のメロディー。胡弓を邪魔しない三味線と太鼓。静かに聞こえはじめた胡弓が近寄ってくる時、自分の気持ちに凜としたものを感じます。観光客が減りはじめ商店の明かりも少なくなった夜の10時頃からが、もっとも雰囲気のある時間です。

踊りは11の町ごとに伝承され、踊り方も町ごとに少しだけ異なります。おそろいの衣装を着る女性の年齢は25歳以下。それも町ごとに多少は異なるとか、近隣の団地から踊り手



▲西新町（諏訪町）の街流し

を加えている町もあるとか。町ごとのルールで運営されています。とはいえ、地方都市の人口減のなかで、町の若者がしっかりと踊りの担い手になっておられます。

歌舞団の拠点となる公民館を覗いてみました。飲食をしながら町の方々が待機されています。熟年から子どもまで、ご家族の出入りもあり、多様な人たちが集まります。そこで、子どもたちは大人の振る舞いを観察し、自然のうちに町でのしきたりを身につけるでしょう。また、年長者にあこがれを感じ、踊りを練習することもあるでしょう。地域の多くの大人とかかわりながら、自ら学習する場がそこにでき上がっている印象を受けました。

八尾小学校の運動会では、風の盆の踊りが演目として採用されているそうで、卒業生のだれもが踊りを身につけます。だからこそ、応援の踊り手も確保できるわけです。

町の人びとの尽力とその広がり、八尾の方々のエネルギーを高め、それに惹かれる観光客を吸引するのでしょうか。何回見に行っても飽きない風の盆です。

(MBO実践支援センター代表)

